

睦言式

ムツミゴト



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



愛したいのではなく、
愛されたいのではなく、
愛しあいたいのだ。



どうしました
藍様？

スー
スー



キ
ュー
ッ



そうですね

どうぞ
満たされるまで

そこは
抱きしめ返す
ところだろうに



最近忙しくて
ご無沙汰
だったからなー

ギュー

ス
ス
ッ

愛情補給
愛情補給



ほら

お前も会えなくて
寂しかっただろ？

……
まあ、ごころ

……まあ、多少は



なんなら
今日はいっぱい
甘えていいんだぞ？

……その分
私もいっぱい
甘えさせてもらおうか

……では
お言葉に甘えて

抱きついてくる藍を
膝の上に乗せ
情交前のキスを落とす

一番密着できる
体勢を探しているのか
ぐいぐいと豊満な身体を
押し付けてくる

キスをせがんでくる藍の
豊かな双丘に手を伸ばし、
服の上から秘所を愛撫する

秘所周りはすでに
ほんのり湿っており
軽く刺激する度
切なそうな
声を漏らしてくれた

藍も負けじと
私を求め
キスをせがんでくる

それに
応えようと
すると――

おっと

お前も
甘えていいんだぞ？

……ほら
私ばかり
じゃなくて……

藍に身体を委ねると
まるで赤子に
授乳するような
体勢を取られる

胸を顔に押し付けると
同時に愚息を
藍の手で露わにされた

屈辱的ではあるが
実に背德的であり――

己の体裁など気に留めず
一心不乱に藍の乳を
欲望のまま吸い上げる

思うままに
乳首に吸いつくと
藍の手も愚息を
優しく弄ってくる



結果—

ん…♡

へっ♡

ひどく情けない
絶頂を迎えてしまう

チユウ…♡

♡
ジュルッ♡

♡
ジュルッ♡

よしよし

いっぱい
出せたな—

えらいぞ—

ナゲイ♡
ナゲイ♡

ただ、頭の奥の奥まで
甘い香りに支配されて

うまく頭が働かない
この感覚が
とても心地よく
感じてしまう

藍を縁側に
横たわらせ、
濡れた秘裂に挿入する

藍の膣内は
溶けるように熱くなっており
愚息をきつく締めあげてくる

膣内をじっくり
味わうように
ゆっくり抽送していると

なかなか
可愛らしい表情を
見せてくれるので

キュッ♡

ほ...♡

それに応えるべく

貪るように口内を犯し
柔らかい胸の感触を
楽しみつつ
腰を激しく打ち付け始める

キュッ♡

キュッ♡

キュン♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

漏れる嬌声を
存分に味わうと



膣内がキュンと締めまり
ビクビクと震え始める

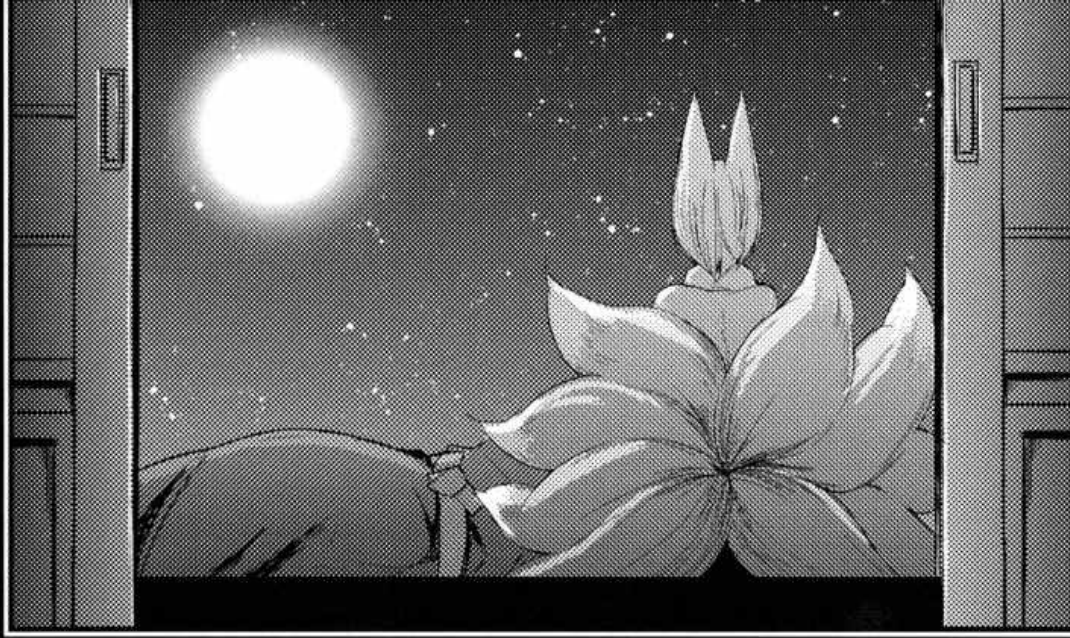
藍の身体がビクンと
大きく波打つ瞬間



その絶頂すら
許さないかのように
腰を強く押し付け
精子を膣内へ注ぎ込んだ

Vertical text boxes, likely containing dialogue or sound effects.





……アハハ
なんのことやら

お前の方は
別にご無沙汰では
なかったそうじゃあないか？

——そういえば

……橙をいじめてたのも
お見通しだからな！？

ナゲ……

いじめてはないます

……
お仕置きは
しましたが



……弱ったなあ

……さて
どうしたものか


あー
次の季節は橙連れて
ここ通っちゃダメだぞ

え？


発情に近い
状態にさせる
変な植物が生るんだよ

スリッスリ♡

モグモグ♡



まー橙にも
言っただけから
大丈夫だとは思っけどな



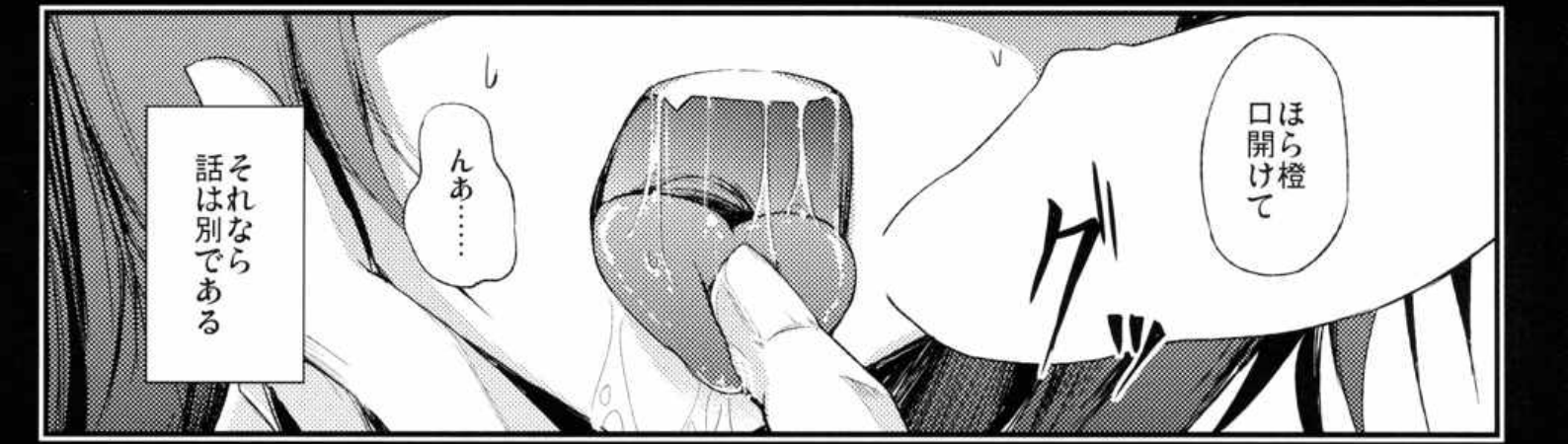
すっかり忘れてたが
藍様が
言っただけってことは……



……わざとか

わざと
連れ込んだのか

ちゅぽ
ちゅぽ
れろ



ほら橙
口開けて

それなら
話は別である

んあ……

橙の頭を掴み
愚息を啜えさせ
腰を揺り動かす

小さな口いっぱい
愚息を押し付け
喉まで犯すように
抽送を始める

橙のような幼い身体を
好き勝手使うのは
流石に気が引けるが……

まあこれは
お仕置きのような
ものでもあるので
何も問題はない(はず)

そのまま橙の頭を
力強く押さえつけ

愚息を根本まで
啜えさせると
食道に直接
精液を流し込んでやる

流石に苦しい
はずだろうが――

口から精液を
だらしなくこぼす
橙の顔は
とても恍惚としていた

グロオ...

クピ...

木に手をつかせ
下着を下ろした
橙の幼い秘裂に後ろから
愚息を押し入れる

橙の膣内は
待ちきれなかったと
言わんばかりに
愚息をきつく締めあげてきた

そのまま細い腰を
鷺掴みにし
好き勝手に
幼い膣内を蹂躪する

後ろから
犯されていても
橙の表情は
恍惚としたままで

はっ♡

あっ♡

このような
変態的なことに
興奮すら
覚えているようだった

膣肉が蠢き
絶頂に近いことを悟ると
こちらにもそれに合わせて
射精するべく


きゃ♡

ぴん♡

あっ♡

やっ♡

橙を抱え上げ
腰の動きを速めて
刺激を貪る



愚息がキュツと
締まる感覚と共に
ひとときわ大きく
橙の身体が波打った

同時に精液が
小さい腔内いっばいに
注ぎ込まれる

犯されていたはずの
橙の顔は最後まで
恍惚としたままだった

はぁ……

ん……



堪能した後は
そのまま橙の口で
愚息を掃除してもらう

Blank vertical text boxes



えっと……
今度はもっと……

激しく抱いてくれると……
その……



あ、あの……
お兄さん

ん?

うあ

Blank vertical text boxes



別の形での
お仕置きを考えた方が
よさそうだ

……


ギュー

まったく……
あれだけ式達を抱いて
まだ元気なんだから


柔らかい胸で
絶頂後の敏感な愚息を
心地よく刺激される

既に何度かの射精で
紫の綺麗な顔や豊かな胸は
白く染め上げられていた







一旦開放されると
紫はそのまま
体に跨がってきて



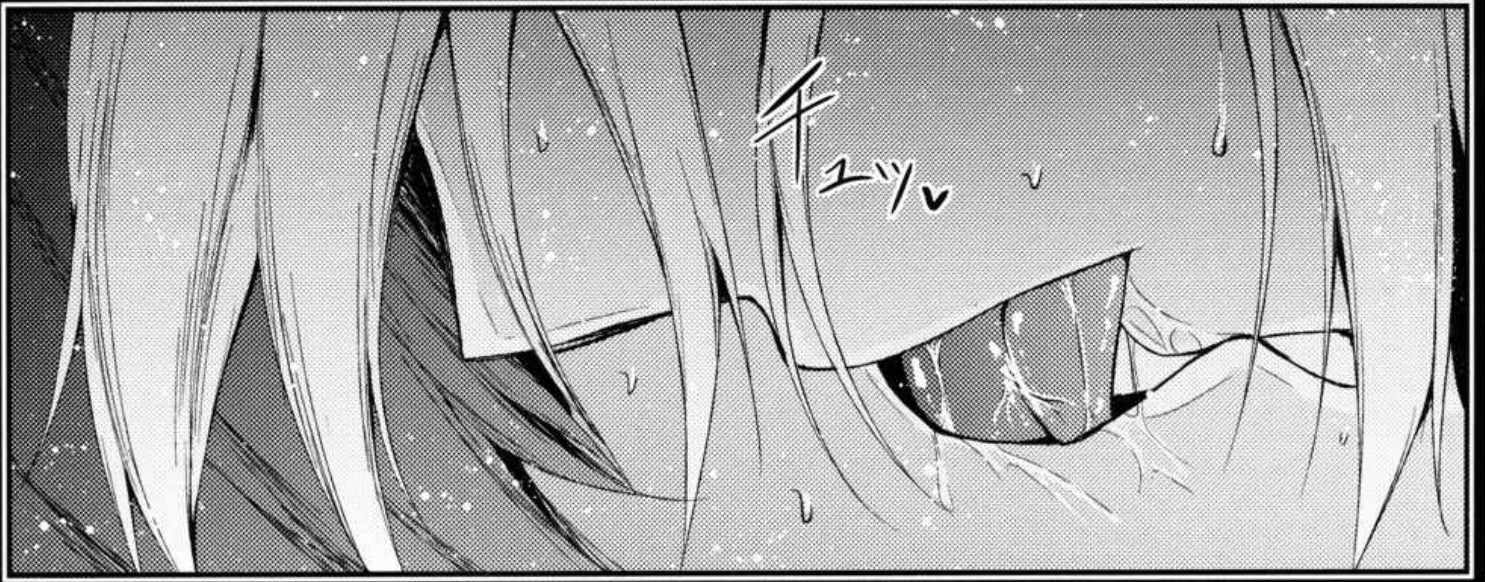
愚息の先を
自らの秘所へと導き
先端を咥える



一気に
腰が下ろされると
同時に紫の身体が
ビクンと跳ねて倒れこむ



軽く達したようだが
それでも紫の膣内は
貪るように
愚息を締めあげてくる



愛して欲しいなら
愛してあげる

愛したいなら
愛されてあげる

もっともっと
愛しあいましょ？

続

睦言 -ムツミゴト- 弐



2015年5月10日 初版発行
第十二回博麗神社例大祭

発行

みどりねこ

制作

みどり

Webサイト

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

印刷

株式会社 栄光

Mail

midori0014@gmail.com

謝辞

ZUN(上海アリス幻楽団)





Long, Long Ago.
There was a green cat.